

科 目 名	子どもとことば論		副題	多文化共生時代の子どものことば	
担 当 者	内藤 知美				
開 講 期	後期	単位数	2 単位	配当年次	1 ・ 2 年次
授業の概要	子どもの総合的発達におけることばの問題について、0歳から就学前までの時期の子どものことばの発達過程とことばの獲得に関わる社会・文化環境について理解を深める。家庭、幼稚園、保育所などの生活における子どものことばに関わる多様な事例を通して、子どもの生活や遊びと大人―子ども関係、子ども同士の関係がことばの発達にどのように相互に影響するのか、関係論的視点から検討する。また子どもを取り巻く社会・文化環境の変化、例えば乳幼児期からの視聴覚メディアの受容、日本語を母語としない子どもの増加、言葉の関わりのもちにくい子どもの問題など、子どもとことばを取り巻く今日的課題を捉える視点をもつことが目標である。また児童文化財を含めた「モノ」を有効に活用し、実際の保育において子どものことばを育てる保育者としての実践力を探究する。				
授業のねらい・到達目標	1. 子どもが多様ななかかわりの中でことばを獲得していく過程について理解を深める。特に子どもが主体的にことばを使用することの意味を問う。 2. ことばをめぐる最新の理論に触れると同時に、具体的な事例を通して、現代社会に生きる子どものことばの発達を捉え、支援する具体的、実践的方法を学ぶ。				
授業の方法・授業計画					
1	子どもとことばの関係性				
2	子どもとことばをめぐる社会環境・文化環境				
3	ことばの発達と保育（0歳期）				
4	ことばの発達と保育（1 語発話の時期）				
5	ことばの発達と保育（2 語発話の時期）				
6	ことばの発達と保育（2 歳期・3 歳期）				
7	ことばの発達と保育（4 歳期・5歳期）				
8	ことばでの関わりのもちにくい子どもの援助①―多文化・多言語と子ども				
9	ことばでの関わりのもちにくい子どもの援助②―ことばとコミュニケーション（ビデオカンファレンスを通して）				
10	事例検討：同調、リズムとことば				
11	事例検討：共感性とことば				
12	事例検討：創造性や思考とことば				
13	ことばを育てる児童文化財の活用①―絵本などの文化財が育むことば				
14	ことばを育てる児童文化財の活用②―文化財を用いたことばの育ちあい				
15	子どものことばと視聴覚メディア				
期末					
授業に関する連絡	個別のメール及び、でんでんぱんを通して連絡をする。				
評価方法及び評価基準	小論文（レポート） 7 0 %、児童文化財の実践 3 0 %				
事前・事後学習の内容	子どもとことばの発達をめぐる最新の理論、研究を随時紹介するので、関連する資料を熟読すること				
履修上の注意	保育事例検討では受講生が自ら考え、積極的に発言することを望む。また「子ども」や「ことば」に関する関連文献を読み、学びを深めることを期待する。				
テキスト	今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』ちくまプリマー新書, 2013年、幼稚園教育要領（平成29年告示）、保育所保育指針（平成29年告示）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)				
参考文献	岡本夏木『子どもとことば』（岩波新書1982）、麻生武『身ぶりからことばへ』（新曜社1992）青木保『異文化理解』（岩波新書2001）、佐伯胖『共感』（ミネルヴァ書房2007）、今井むつみ『ことばと思考』（岩波新書2010）など授業中に適宜指示する。				